

1 在宅及び地域福祉活動の推進事業

事業名(項目)	内 容	対 象	備 考
1. 福祉ネットワークづくりの推進	ふれあい安心電話設置者や要援護世帯の必要性・緊急性を考慮し、関係団体と連携しネットワークづくりに努めた。	要援護世帯	継続
2. 安心・安全な街づくりの促進	町の単独事業となる安心・安全な街づくりパトロール隊事業を実施し、町内の要援護世帯を訪問し、安否確認・相談支援を行うとともに関係機関と連携を図った。	要援護世帯 地域住民 民生委員 社協支会	継続
3. ふれあい安心電話事業の継続と待機者への設置	既設されているふれあい安心電話(120台)の継続と有効な利用を行うため機器の使用方法の指導、協力員の確認などを業者の定期点検時と合わせて行った。(150台設置可能)	町 設置者 協力員	継続
4. 在宅要援護世帯への支援	買い物や薬取り、訪問歯科診療など支援が必要な在宅要援護世帯に対する支援を町や関係機関へ提言した。	該当者	継続
5. 除排雪と雪おろしの支援	各支会や民生委員協議会等と一層連携を強め、一人暮らし・老人夫婦・身障世帯等の除排雪と雪おろしに積極的に支援した。また、町の事業である福祉除雪の依頼者は164世帯。	一人暮らし世帯 老人夫婦世帯 身障者世帯等	通年
6. 憩い・ふれあいの場等設置促進	西馬音内・仙道地区の福祉サロンに加えて小地域単位の居場所づくりを推進した。	町・支会	通年
7. 第3期地域福祉活動計画	1年延長した活動計画を進めるとともに、第4期地域福祉活動計画を町の地域福祉計画と一体的に策定した。	本会・支会	継続
8. 出会い婚活事業の協力	結婚を望む男女の出会いの場を創り出す事業を支援した。 (まちづくり愛と共同で開催)	男・女 23人	10月14日 仙道「地藏院」
9. 長期不就労者対策事業	事業名「てらすはうす」を実施し、長期間定職についていない青年層やその家族の集まる場所づくり及び相談業務を行った。	該当者	毎月第3木曜日 コミセン

2 ボランティア活動の促進と福祉団体への支援

1. ボランティア団体連絡協議会等への支援	ボランティア活動を側面から積極的に支援し、活動の推進に協力し、社協広報等で周知した。	ボランティア団体と個人	継続
2. 福祉団体への支援	団体の自主的な活動を基本とし、町身体障害者福祉協会など関係団体と連携を図り、活動への助成を行った。	福祉団体	継続
3. 体験学習等への支援	大学生・専門学校生・高校生のボランティアや体験学習時の受け入れ、小中学校の施設体験学習及びボランティア活動を積極的に支援した。また一般の方々の体験ボランティアも受け入れを行った。	小学生 中学生 高校生 専門学校生 大学生 一般	継続
4. 災害ボランティアセンターの設置研修の実施	災害ボランティアセンターの設置が必要になった時のために、策定した運営マニュアルの活用について、検討した。30年度は被災地への派遣はなかった。	町社協	継続

3 生きがいと健康づくり事業

1. 一人暮らしの会への支援	愛称「さくら草の会」。年数回の集いを催して交流を深め、福祉講話会やアトラクションなども盛り込んだ。また、生活上の問題も話し合い、会員増にも努めて元気の出る会にした。 5月25日 としとらんど 19名 総会 10月19日 としとらんど 29名 いも煮会 3月8日 としとらんど 16名 お楽しみ会	会員	随時
2. 健康講話会の開催 (福祉茶話会への協力)	あらゆる集いの機会をとらえて健康講話会を開くよう努め、自殺予防にも結びつけた。支会等で行っている福祉茶話会にも協力した。	一般住民	健康講話会 2月22日 97人
3. シルバー人材センター事業	<ul style="list-style-type: none"> 各種講習会の開催 春 交通安全教室 (4/6、13名) 町から受託の福祉除雪に取り組んだ (会員56名が派遣世帯164世帯) 	公共団体 企業 一般家庭 会員	通年

4 福祉教育と広報活動

1. 福祉大会の開催 (ふれあい福祉まつりの同時開催)	第47回の開催。社協理事、事業推進委員会、シルバー人材センター会員、町内福祉施設、ボラ連、老人クラブ等で実行委員会を組織し、第一部式典、第二部アトラクションを羽後町文化交流施設「美里音」にて開催した。 また、異世代間のふれあい機会づくりにも努めた。 表彰状2団体、善行表彰1団体 (11月4日開催、一般参加者数約500名)	福祉関係者、学校、生徒、一般 (父母も含む)	11月4日
2. 福祉に関する研修会の開催	役職員等において、福祉活動推進に必要な知識や運営方針等について先進地を視察し研修会を開催した。 (岩手県遠野市社会福祉協議会 役職員12名参加)	本会役職員	12月10日 ～11日
3. 福祉だよりの発行	「ふれあい」を年4回の発行予定。5,700部印刷、全戸配布。事業報告や福祉団体の動きなども掲載。ホームページの更新も必要に応じて行った。	町内全世帯 インターネット	ふれあいの発行 ・5月・8月 ・10月・1月 ホームページは通年
4. 社協の概要の発行	定款のほか事業等を掲載。150部印刷	町社協役員・評議員、支会・民協役員ほか	6月

5 福祉相談活動と各種資金貸付事業

1. 相談窓口の充実	相談しやすい窓口の改善に努めた。 生活福祉資金相談体制整備事業も継続した。 (心配ごと相談事業を含めた総合相談)	一般	随時
2. たすけあい資金の貸付け	低所得世帯の生活費つなぎ資金として無利子で貸付けした。(原則5万円以内で、6件貸付をした。)	要援護世帯	随時
3. 生活福祉資金受付事務事業	生活福祉資金相談体制を整備し、各種資金の貸付けの事務手続きを通して要援護世帯の自立促進を図った。 現在41件【総合支援資金、福祉資金、教育支援資金、不動産担保型生活資金】	要援護世帯	随時
4. 福祉サービス利用援助事業 (日常生活自立支援事業)	年度内利用者は3名。専門員と支援員が協力し、福祉サービスの利用や金銭管理などの支援を行った。	認知症高齢者・知的及び精神障がい者	随時

6 各種募金活動

1. 日赤社員募集 (社費)	目標額 700 円で、募金協力員、福祉協力員・行政連絡員に協力をお願いした。実績は 4,299 件 2,773,650 円。	全町	6 月～8 月
2. 青い羽根募金	目標額 100 円で、水難事故防止対策のための募金をお願いした。実績は 4,220 件 424,200 円。	全町	6 月～8 月
3. 赤い羽根共同募金	目標額 700 円で、赤い羽根募金運動を進めた。学校・施設・募金箱を含めて実績は 4,140 件 2,827,076 円。今年度も西馬音内商店会など企業の協力を得て実施した。	全町	10 月～11 月
4. 歳末たすけあい募金	目標額 300 円で、町内の施設や要援護世帯へ送る協力金をお願いした。実績は 4,189 件 1,238,230 円。	全町	1 2 月

7 組織体制の強化と財政基盤の確立

1. 支会との連携強化	地域における支え合い及びネットワークづくりを目的に支会と一層の連携強化に努めた。	支会・地域住民 パトロール隊	随時
2. 会員の拡大	社協活動の一層の周知を行いながら、一般会員・特別会員・法人会員等の加入推進に努力した。 一般会員 4,391 世帯、法人会員 18 事業所、特別会員 22 人。	一般・企業等・ 社協役職員	7 月
3. 未回収資金の回収努力	たすけあい資金貸付金の未返済者に、民生委員の方々の協力を得ながら回収に努力した。	該当者	随時
4. 社協事務所の建設要請等	事務所建設委員会を組織し、町と協議を行い平成 31 年度(令和元年度)に実現できるように継続していくこととなった。	町 長	
5. 冗費の節約と合理的な業務の遂行	日常の業務において、省エネ、冗費の節約に努め、創意工夫のもとに合理的・効率的な業務遂行に努めた。	業務全般	通年

8 介護関係事業

1. 訪問介護事業	介護保険法によるホームヘルパーの介護、生活支援すると共に、派遣希望者から意見を聞き、自立と尊厳が守れるよう努めた。	介護認定者 の派遣希望者	通年
-----------	---	-----------------	----

2. 総合事業訪問型介護事業(独自型) (予防訪問介護含む)	地域支援事業の実施に向けたサービスのあり方について協議した。要支援者の受け入れを行った。	介護認定者の派遣希望者	通年
3. 居宅介護支援事業	介護保険法による介護支援専門員(ケアマネジャー)による訪問調査の受託やケアプランの作成を行った。	介護認定申請者及びケアプラン作成依頼者	通年
4. 身体障害者・知的障害者(児)・精神障害者居宅介護支援事業	障害者総合支援法によるホームヘルパー派遣による介護を行った。	障害区分認定者	通年
5. 通所介護事業	五輪坂デイサービスセンター利用者に対する介護を行った。	介護認定者の希望者	通年
6. 予防通所介護事業(独自型) (予防訪問介護含む)	実施に向けたサービスのあり方について、町と協議した。平成30年度から完全に移行した。	介護認定者の希望者	通年
7. 特別養護老人ホーム松喬苑介護等業務事業	介護職員が松喬苑で介護に従事した。	松喬苑入所者	通年
8. 羽後町田代福祉センター介護等業務事業	介護職員等が田代福祉センターで介護等に従事した。	介護認定者の利用登録者	通年
9. 高瀬ケアセンター業務事業	介護職員等が高瀬ケアセンターで介護等に従事した。	高瀬ケアセンター入所者等	通年
10. 介護福祉士の養成と介護・看護従事者の確保	<ul style="list-style-type: none"> 介護従事者が不足しているため、専門学校を訪問し、従事者確保に努めた。 看護師の確保も非常に難しく、町立羽後病院など近隣の病院・医院の退職者などの把握に努めた。 介護福祉士受験者7名がすべて合格。 	該当者	通年
11. 新規職員の確保	<ul style="list-style-type: none"> 介護従事者が不足しているため、ハローワークや紹介により採用を進めた。(新卒2名) 介護職員処遇改善一時金を支給した。 	介護職員	通年

(全体で44項目)